

STAGE+を楽しむ(211)(HP 収載)
—ソコロフのベートーヴェンとモーツァルト—

1. 始めに

前報(210)に引き続き、STAGE+のソコロフのベートーヴェンとモーツァルトの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のベートーヴェンとモーツァルトの演奏を選びました。

ソコロフ plays ベートーヴェン&モーツァルト

コンサート

リンゴット, トリノ

収録日: 2017年5月31日

グリゴリー・ソコロフは現役ピアニストで最も偉大なプレイヤーのひとり。近年は全ての演奏活動をソロ・ピアノ・リサイタルに専念することに決めて、ヨーロッパの主要ホールで毎シーズン演奏を続けています。2017年5月にイタリアはトリノ市街、フィアット社の旧リンゴット工場再開発施設内の「オーディトリウム・ジョヴァンニ・アニュェリ」で行われたこのプログラムでは、モーツァルトやベートーヴェンを皮切りにシューマンやドビュッシーまで、その独自の妙技で魅せます。ビロードのようなタッチで瞑想的に音楽に誘われるひとときをご堪能ください。

ソリスト:

グリゴリー・ソコロフ (ピアノ)

曲目:

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト ピアノ・ソナタ第16番ハ長調 K. 545

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 幻想曲ハ短調 K. 475

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト ピアノ・ソナタ第14番ハ短調 K. 457

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン ピアノ・ソナタ第27番ホ短調 Op. 90

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン ピアノ・ソナタ第32番ハ短調 op. 111

フランツ・シューベルト 《楽興の時》 Op. 94, D.780

フレデリック・ショパン 夜想曲 op. 32

ジャン=フィリップ・ラモー コンセール形式によるクラヴサン曲集

ロベルト・シューマン アラベスク Op. 18

クロード・ドビュッシー 前奏曲集第2集 L.123



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、仮想アース Crystal Ep-G の導入(3)で報告した、Sonica DAC への Crystal EpY-G の接続を継続しています。

ソコロフの演奏は、2023 年ツアーのモーツァルトとパーセルの演奏を、前報(205)はライブ収録の配信で、前報(206)はアルバムの配信で試聴しています。今回は、2017 年のイタリアのトリノでの演奏で、モーツァルトとベートーヴェンが主な曲目です。

モーツァルトのピアノ・ソナタ第 16 番、幻想曲ハ短調、ピアノ・ソナタ第 14 番はお馴染みの曲です。いずれの曲も、ソコロフは淡々と弾いているようですが、感情を込めたフレージングと美しい音色で、これぞモーツァルトといった情景を紡ぎだしています。

ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第 27 番、ピアノ・ソナタ第 32 番もお馴染みの曲で、特に後者は聴く機会が多いものです。ソコロフはモーツァルトから一変して、緩急、強弱、抑揚自在に、ダイナミックな演奏でありながら美しいベートーヴェンです。シューベルトの《楽興の時》とショパンの夜想曲 op. 32 は、お馴染みの曲です。

ラモアのコンセール形式によるクラヴサン曲集は、初めて聴く曲で、シューマンのアラベスク Op. 18 は、お馴染みの曲、ドビュッシーの前奏曲集第 2 集 L.123 は、初めて聴く曲です。いずれの曲も、小品ですが、モーツァルトとベートーヴェンとは違った、それぞれの曲の表情を最大限に活かした弾き方をしています。

これまでの対策からそういった多様な音楽の表情を捉えやすくなっています。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G も使用した結果、ソコロフのベートーヴェンとモーツァルトに加えて、シューベルト、ショパン、ラモー、シューマン、ドビュッシーなどの多様な音楽の表情を捉えています。

以上